

第1回 平塚市総合計画審議会

会議録

日時 令和5年7月15日(土) 10時00分～11時45分

場所 平塚市役所本館3階 302会議室

出席者 22名

大熊委員(会長)、湯川委員(副会長)、白石委員、齊藤委員、秋山委員、田中委員、木川委員、金田委員、志村委員、大場委員、白岩委員、中村俊太委員、藤井委員、森委員、米村委員、片倉委員、出村委員、上野委員、増田委員、尾上委員、近藤委員、篠田委員

市出席者 1名

事務局 8名

傍聴者 1名

開会

- 1 委嘱状交付
- 2 市長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議事

(1) 会長及び副会長の選出について

【事務局】 会長及び副会長の選出については、平塚市総合計画審議会規則の規定に基づき、互選となっている。御意見等があれば、お願いしたい。

【委員】(事務局一任の声)

【事務局】 事務局としては、総合計画は様々な分野から成る計画なので、幅広い知識と経験を有していただける、東海大学政治経済学部教授の大熊委員に会長を、神奈川大学経営学部教授の湯川委員に副会長をお願いしたいと思うが、いかがか。

【委員】(異議なしの声)

【事務局】 それでは、会長に議長をお願いし、以後の進行は会長をお願いする。

(2) (仮称) 次期平塚市総合計画の策定方針等

(3) 計画策定に当たり踏まえるべき事項等

(4) (仮称) 次期平塚市総合計画について

【事務局】(事務局より資料説明)

【会長】 事務局から説明があったが、各委員から一人ずつ意見をもらいたい。時間に限りがあるので、1人当たり2分をお願いする。

【委員】 次期総合計画ということで、人口減少を見据えた施策、計画を作っていこうという主旨だと認識している。我々の団体では、平塚の働き手不足が既に深刻な状況にあると感じてい

る。特に建設業、サービス業、製造業中心に、年を経るごとに働き手不足の状況が進んでいる。企業によっては、地方から働き手を募集して働き手の確保に成功している。湘南エリアで住んでみたい、働く場所を確保したいと思う若者が地方にはいる。働き手が増える様、地域の魅力を活かし、若者を呼び込む視点を取り入れて欲しい。

【委員】賃金が少し上がってきたが、物価も上がったことで生活がそれほど改善されていない。晩婚化という問題もあるが、結婚する人たちが、少なくなっていると感じる。子育て、教育よりも、まず結婚ができる環境づくりが必要である。また、観光資源について、七夕まつりの他、平塚市は海に面しているの、海岸沿いを中心とした観光名所ができれば良い。

【委員】自治会は、地域の福祉をみんなでまとめ上げて、人間集団として持続していけるよう、日々活動をしている。平塚市は現在、約70%弱の自治会加入率の状況にあるが、自治会加入率は重要ではなく、少しでも住みやすく、ご近所で手を携えて、心を配り合いながら、生活できれば良い。ご近所で自由に挨拶を交わし、引っ込み思案にならず、胸を張って生きることができる地域を作っていきたいと考えている。

【委員】コロナが5類になり、飲食店から注文が増えたが、地球温暖化、黒潮流量減や磯やけなどの自然環境の影響で、注文どおり魚が獲れず悩んでいる。不要となった魚を加工するなどして販路を増やしていきたい。また、市場の老朽化が進んでおり、これからの課題である。

【委員】平塚市では、高齢、障がい、貧困の関係できめ細かく色々な施策を実施している。総合計画の今後の方向性から見ても、人口減少、高齢化が著しくなり、例えば、保険医療制度がどのようになるか心配している。福祉について、地域で抱える問題が複雑化、複合化している状況であり、地域包括ケアとともに、重層的支援の事業など、きめ細やかな体制を作ってもらえると良い。また、地域では、高齢化が進むとともに、ボランティアや後継者が不足し、地域が活性化されていない。

【委員】子育て支援は重点課題であり、我々の団体が、当然担わなければならないという使命を持っている。今回も大きな政策の柱の一つに子育て支援を入れてもらっている。歯止めがからない少子化の状況下にあるが、平塚市が子どもを産み育てやすい環境となり、平塚市に生活拠点を構えてもらうように、市の子育て支援担当部局といろいろセッションして、この会議に持ち上げていくような流れを作っていきたい。

【委員】地域では、高齢化がかなり進んでいる。また、共稼ぎの家庭が多く、昼間には地域に人がいない。さらに、人と人とのつながりが希薄になっている。例えば、自治会の防犯活動をしようにもできなくなっている。これらが大きく影響して課題となっていることは、地域のコミュニティを支えている各種団体の役員となり手がかなり少なく、なり手が見つかりにくいことである。自治会等に加入する世帯がなかなか増えない中で、各種団体の多くの役員は他の団体の役員を兼務している現状がある。市が様々な施策を展開する中で、地域に求めることが多いことから、各分野において、役員を兼務していると、担い切れない。まちづくりは市をはじめ国や県が重要な担い手ということは十分承知をしているが、自治基本条例にもあるように、地域に暮らす人々との協働が非常に重要である。また、コミュニティの核となる人材を作る仕組みをどのように実現していくのか考えていく必要がある。

【委員】地域の活性化、例えば七夕まつりなど、たくさんの方が期待して平塚市に足を運んでくれている。七夕まつりでは、商店街の方も、地域活性化のために何かしたいという気持ちを持たれていた。また、海や山などの自然を活かした観光に力を入れて、環境保全を行いな

がら、それを経済活動につなげていける可能性を平塚市は持っていると感じているおり、立地を活かした施策があると良い。

【委員】定期的に通勤先に通いつつ、テレワークも行っている。国全体の問題意識として、東京圏への一極集中があり、これを是正する必要がある。平塚市としても、人口減少にどのように対応していくかを考えていく中で、この魅力のある湘南エリアを活かして、近隣の市町村と連携して、東京圏への一極集中是正の受け皿となるような取組ができると良い。人口減少への対応として、人口減少の抑制に加えて、人口が減少しても、社会を維持していくことができるインフラ・基盤づくりも重要である。

【委員】基本的には、毎日テレワークで仕事をしている。人口減少に伴う人手不足など、様々な問題が生じているが、ITの活用は、様々な分野で、我々の生活を豊かにすると信じている。また、人口減少ということが今回のメインテーマになると考えており、ITの活用と人口減少に力点を置いて、考えていきたい。

【委員】県西地域には小田原市や南足柄市といった市があるが、平塚市は県西地域を引っ張っていく市になり、お手本となるような施策をしっかりとやっていくべきである。「デジタル」という用語が随所に出てきている。デジタルの活用について、より具体的な方策や、今度の見通しなど、8年間を見通すことは難しいかもしれないが、直近4年間くらいは、誰もが分かるような形でデジタルの活用を進めて欲しい。そういう意味では、近隣地域とのネットワークをしっかりと考えて、様々な形で市民に貢献できるような市になってもらいたい。

【委員】東京一極集中の状況下において、政令市ではない平塚市がどのような道筋を歩んでいくのかということが重要である。平塚市だけでできないことは、隣の茅ヶ崎市、大磯町、二宮町や小田原市辺りの県西地域と連携して進めていくべきである。特に、海や山といった自然を生かした平塚市の魅力を更に発信できると良い。それに関連して、漁業、農業など、平塚市の独自性、いわゆる6次産業を生かしながら、平塚市の特徴をもっと強く前面に押し出して欲しい。あと、人口26万弱のまちで子どもを産み育てようと言っている割には、出産が可能な産婦人科の数が少なく、充実を図れていない。出産・育児支援の充実を図ることが一つのPRとなり、他市から平塚市に引っ越してくれて生活してくれる、そして新たな家庭を築いてくれるようになってくれると良い。また、保育園の関係で、今までは待機児童ゼロを進めてきて、いわゆる、保育の量を確保してきたが、これからは、量から質への転換ということが求められてくるが、今すぐやったから来年すぐにはできるようになるものではないので、中長期的な期間を見据えて、人口増減も見ながら、保育園の充実を図ってもらいたい。

【委員】様々な世代、女性、障がい者、外国籍の方など多様な観点があり、平塚らしさが残る、平塚らしい総合計画というものを作っていきたいと考えている。とりわけ、今、平塚市に住んでいる人たちが、平塚市に住んで良かったと思ってもらえることが、平塚市にとって一番のPRとなり、シティプロモーションに繋がっていくと思う。他自治体から人を引っ張ってくるような施策も大事かもしれないが、今住んでいる人が満足に感じてもらうことが一番大事だと思っている。

【委員】平塚市の将来像を見据えた中で、2核1地域といった土地利用に関して、国の施策も、様々な変化してきている。人口減少社会の中で、人口を取り合うのではなく、周辺地域との協力によって、土地利用の中で、地域全体を活力あるものにすることが大変重要である。観光、産業、農業など様々な分野において、地域の声も含めて、全体的に網羅できるような

総合計画を作るべきである。

【委員】 重点戦略の柱立てで、子育て、福祉、安心して住み続けられる地域、産業とあったが、今の平塚市 25 万 7,000 人余の市民が、良いまちになる、良いまちであると思えるような総合計画であるべきだと考える。令和 4 年度の市民意識調査について、居住意向が、約 9 割となっており、また、平塚市は転入超過の現状がある。この要因となっている平塚市の良さが総合計画の中に反映されると良い。特に国が重きを置くべき施策である少子化対策について、平塚市だけではなかなか限界があるため、国、県、市が連携の基に、積極的な施策の展開を図るべきである。産業も平塚市には数多くあり、更なる発展を進めていくべきである。安心・安全について、最近の検挙率は、防犯カメラの設置が大きく影響している。防犯カメラなくして検挙率も高まらない。

【委員】 平塚市は、海をはじめとした魅力的な資源が豊富であると感じており、海の魅力を中心とするかどうかは別にしても、見ただけで平塚市は良いまちだと思ってもらえるような総合計画にしていければ良い。人口の将来展望で、平塚市は、2070 年、50 年後には、人口が今の 25 万 7000 人から 16 万人程度になるという衝撃的な数字が出ている。しかしながら、国は、異次元の少子化対策を進めていくという旗を掲げ、2030 年までに、少子化対策のベクトルを上げていこうとしている。総合計画の中でも、国の少子化対策に対する動向を踏まえると良い。あと中心市街地について、平塚市は他市と異なり、駅が一つであることが特徴的である。逆に言うと、駅周辺の対策をしっかりと進めていけば、魅力ある拠点ができると思う。

【委員】 農業関係について、昨年当たりからの燃油や資材・飼料価格の高騰があり厳しい状況にある。特に酪農・畜産農家や野菜を栽培する農家が減ってきている。平塚市の西側地域は農業地帯であり、そのことを他の事とうまくマッチングして総合計画を作り、まちづくりを進めて欲しい。

【委員】 信用金庫は北海道から沖縄まで全国 254 金庫あるが、平塚市は人口が 25 万強で、1 次、2 次、3 次の産業のバランスや地理的な条件も良いので羨ましいということをよく言われる。一方で、総合計画を作るときに、平塚市は特徴がなく、対策の決め打ちができないことから、平塚市をどのようなまちにしたいのか様々な意見を交わしていく必要がある。また、女性の登用について課題であると思う。日本の産業構造では、女性の生産性や就労率が低いという特徴がある。理由としては、子育て世代の児童が待機児童にならないように保育園を充実したり、小児医療費を助成したりしているが、人口減少の中では、家庭にいた女性が働けるような環境にしないと、労働力が足りず、いわゆる労働生産性が上がってこない。外国人労働者もいるが、人口減少社会における労働力の確保については、みんなで考える必要がある。平塚市は、神奈川県内で一番働ける状況にある家庭が多いにも関わらず、就業していない比率が極めて高いというデータがある。その原因がどこにあるのかしっかりと考えて、年次有給休暇が取得しやすく、短時間勤務がしやすいといった、いわゆる、女性がしっかりと働けて、本人の希望通りに働ける企業が増えていかないといけない。また、総合計画策定に当たって、最終的なゴールを見据え、どのような K P I (重要業績評価指標) を設定するかが重要である。

【委員】 総合計画市民ワークショップでまとめた平塚市の将来像の中で、「いつでもホッとするまち」、「海、山、川などの豊かな自然にいつでも触れ合うことができる」とあり、平塚市の特色をよく表していると思う。河川の浸水対策に関して、平塚市内には金目川が大きく流れているが、最下流部であることから、大雨が降ると浸水が起きてしまう。中流域でも、

護岸が崩落する。災害に強いまちづくりを進めるためには、県においてしっかりと計画を作って整備を進めていくが、県と平塚市でしっかりと連携して災害に強いまちづくりを進めていく必要がある。また、まちづくりに関して、大神地区でもかなり拠点形成が進んでおり、今後、道路や歩行者の動線など、様々な交通の利便性も考えていかなければならない。平塚市は自転車の活用が非常に多いので、交通の計画についても念頭において考える必要がある。

【委員】人口減少は平塚市に限ったことではなく全国的な話である一方、神奈川県全体で見れば、全国の道府県に比べればまだ良いほうなのかもしれないが、少なくとも人口減少は確実に進んでいくので、今から将来にわたって、人口減少を見据えた対応を考えていく必要がある。人口減少への対応は、一自治体だけでは難しいので、湘南地域だけではなく、県域、県西地域の自治体と連携しながら一緒に取り組んでいくべきである。県も同じく総合計画を見直し、基本構想や実施計画を作っていく。国や県の動向を踏まえ、連携しながら総合計画の策定を進めて欲しい。

【副会長】子どもが通う小学校では、クラスメイトには海外にルーツを持つ児童がいて、日本語で教育を受けているが、海外にルーツを持つ児童が身近にいるということを経験的に感じたことから、市民とは、一体誰のことを指すのかということが、一つのポイントになる。日本全体で人口が減少している中で、人口が増えていくことは難しいが、平塚市の魅力を発信していくことで、移住したいと思う人が出てくるであろうし、実際に移住してきた人もいると思う。(企業の)マーケティングの観点で見ると、平塚市は、市民がおいしいと思っているレストラン、おいしい農水産品、楽しく遊べる海、多くの公園があるなど、すごく資源に恵まれており、子育てが非常にしやすいまちであると経験的に感じている。住んでいる人たちが楽しいと思えることが話題に上がることで、市外の人からの注目を引くといった手法もマーケティングの中にあるので、多様な視点の中で、住んでいる人たちに視線を向けていくことも必要である。ただ、総合計画の策定は市が進めていくことから、企業経営のようにターゲットを選択し、集中して進めていくことは難しく、全般的に進めていかなければならないので、総花的な計画となってしまうかもしれないが、平塚市はみんなが楽しく暮らせるまちであるといったことが、計画に盛り込まれてくると良い。

【会長】各委員から一通り意見をもらった。それぞれの立場から幅広い意見があったので、まとめ上げられるものではないが、人口減少、高齢化といった共通のキーワードがあった。そのような状況の中で、働き手やコミュニティの担い手が減っている。また、様々な環境の変化がある中で、産業においても、漁業、農業を含めて、様々な課題に直面している。共通の重要課題として子育て支援、コミュニティの強化、魅力あるまちづくりなどについて、それぞれの言葉で触れていたと思う。その中で、平塚市の可能性を感じるような発言もたくさんあった。平塚市の海、山などの資源、環境があって、産業は1次産業、2次産業、3次産業が揃っている。ITを活用する環境についても、テレワークを組み合わせた通勤もある。これらの可能性を活かしていくことで、住んでいる人にも、外から来た人にも魅力がある地域となるという印象が残った。個人的に感じたこととしては、総合計画市民ワークショップに参加した際にも感じたことでもあるが、平塚市は良いところで、いろいろなものが揃っていて、みんなそれなりに幸せを感じているということである。やや特徴がないということになりがちではあるが、このまま普通にやっていっても平塚市はやっていける、今までの延長線上で進んでいっても良いと感じる部分がある。ただ、世の中はどん

どん変化して、人口が減少していく、DXも進んでいく、環境の変化に伴う環境対策も求められていく。良いところを維持して伸ばしていくにも、どのような特徴を打ち出して、どのように変えていくか、やや尖った見方も必要ではないか。他に意見があればお願いしたい。

【委員】 総合計画市民ワークショップでまとめられた平塚市の将来像について、色々な分野に特徴があるとあったが、他の自治体でのワークショップと比べて、特徴的なキーワードはあったか。

【会長】 今までの行政経験や感覚的なことで言うと、平塚市は本当にいろいろなものが揃っていて豊かであるということである。環境保全をしながら地域をどう盛り上げていくのか自治体の方と話をしていると、資源が限られており困っている方が多かった。例えば、2次産業があまりないので、森林を活かしていくしかない、あるいは海を活かして活性化するしかないなどだが、逆にそこから際立ったバイオマス事業などのプロジェクトが出てきて、全国のモデルになって人が集まってきたということがあった。それらと比べると、平塚市は豊かで良いと思いつつ、一つ突出したものが欲しいと思う。

(5) その他

【会長】 これまでの議題については以上で、今後は、次回の審議会に向けて、事務局で作業を進めていく。最後に「その他」として今後の会議の開催日について、例えば、土曜日を除く平日の開催が良いのか、今回のように土曜日・日曜日に開催をすることについて意見を聴きたい。今回、土曜日の開催にした理由は、若い世代の方を含めて幅広い年齢層の方に市民委員として参加してもらいたいという狙いがあったと事務局から聞いている。また一方で、様々な立場の方が参加するので、より多くの方が参加できるべき。全ての方の意向を叶えることは難しいが、今後の審議会の開催日を調整していく上で参考にしたいので、意見があればお願いしたい。

【委員】 市民委員は新しい意見を持っていると思うので、市民委員が参加しやすいのであれば、土曜日・日曜日の開催でも良いと考える。

【副会長】 子どもが小さく、土日は学校が休みになり預けるところがないので、できれば平日の方が良いという方もいると思う。市民委員の方は新しい意見を持っていると思うので、都合の良い曜日を確認したほうが良い。

【会長】 女性に参加いただくという点で重要であると思う。あとは市民委員の個々に予定を聞きながら、最終的には事務局と相談して決めたい。

閉会

以上